

(H30.7.30)
第1回推進会議

資料2

案

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画

基本計画【中期】の総括

〔平成26年度～29年度〕

平成30年9月

高浜市





第6次高浜市総合計画 中期基本計画〔平成26年度～29年度〕の総括 目次

1.	はじめに	
	(1) 総括にあたって	●ページ
	(2) 中期基本計画の総括の体制	●ページ
	(3) 総括の進め方	●ページ
2.	「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果	
	(1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果	●ページ
	(2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧	●ページ
3.	中期基本計画の総括	
	(1) 総括の見方	●ページ
	(2) 総括	
	I. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創るっ	
	目標(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます	●ページ
	目標(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います	●ページ
	II. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう	
	目標(3) 人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	●ページ
	目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、 12年間の学びや育ちをつなげます	●ページ
	目標(5) 地域ぐるみで子育て・子育てを支えます	●ページ
	III. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくるっ	
	目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	●ページ
	目標(7) みんなでまちをきれいにします	●ページ
	目標(8) ハーモニーを奏でる快適な都市空間をつくります	●ページ
	目標(9) 安全・安心が実感できる地域づくりを進めます	●ページ
	IV. いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう	
	目標(10) 一人ひとりを認め合い、 その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	●ページ
	目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します	●ページ
4.	おわりに	
	(1) 中期から後期につなげていくために	●ページ
5.	参考資料	
	(1) 「第6次高浜市総合計画推進会議」のあしあと	●ページ

基本目標
Ⅲ・Ⅳのシート
に関しては、第
2回推進会議が
近づいたら送
付させていただきます。

【総括シートの見方】 いえ みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

目標（１）

まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます



I. 目標と目標の達成状況

★中期基本計画の内容、市民意識調査結果等を記載する。

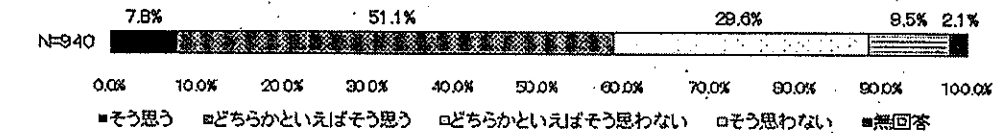
1. 目指す姿

目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい！」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分のできる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

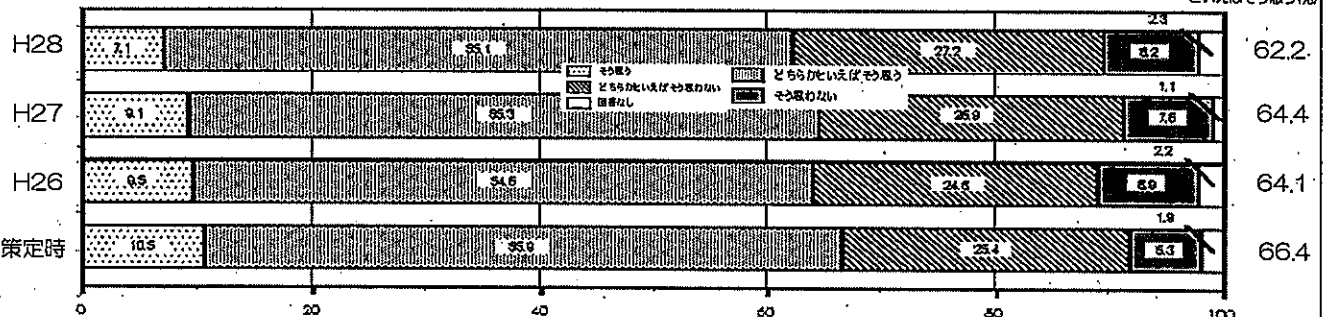
2. 市民意識調査結果

【設問】

まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う

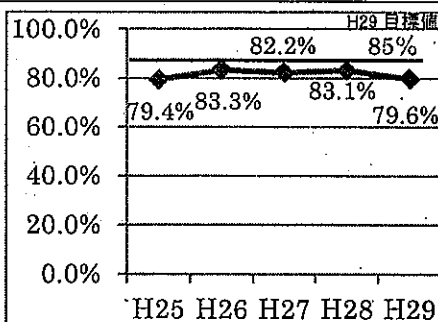


⇒ そう思う+どちらかといえばそう思う (%) 58.9%

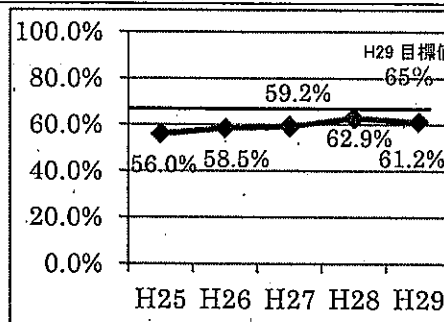


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

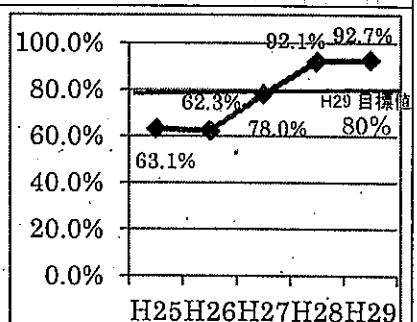
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



【総括シートの見方】

4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・「市民意識調査」は中期計画策定時より7.5%低下している。「みんなで目指すまちづくり指標」1)～3)については、1)は横ばい、2)は5.2%の上昇、3)は29.6%の上昇となっており、3)については目標値も達成できた。
- ・「みんな」
動へ40件
★「指標の状況」や「市民意識調査結果」を踏まえ、指標（目標）が達成できた要因・達成できなかった要因といった分析内容を記述する。
（担い手）が不足しているといったまちづくりの現状が反映されていると感じています。地域活動への参加の機会を増やし、参加を促すだけでは、まちへの愛着の向上や市民みんなが連携・協力したまちづくりにはつながっていかないと分析できます。地域活動への参加意識が高まってきている中、参加者側から参画者（担い手）側になっていただけるような仕掛けが、いつまでも住み続けたい高浜をみんなで連携・協力していくには、必要不可欠であります。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。

該当アクションプラン H26～H29 情報発信パワーアップ事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言」を作成し、各まちづくり協議会で周知するとともに、公共施設に設置した。	H26.7
	②市公式フェイスブック	H26.9
	③「自分自身が動くこと」	H26.12
平成27年度	①ホームページのトップ	H27.10
	②市政情報を手軽に入手した。	H28.1
平成28年度	①広報発行により市政を詳しく紹介した。	H28.4～
	②市政記者への情報提供	H28.4～
	③ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.4
平成29年度	①「〇〇部長の実行宣言」平成29年度版を作成・公表した。	H29.4
	②市公式ホームページに「市長の公務や表敬訪問の写真、主な記者発表資料」を掲載し、即時的な公表につとめた。	H29.9
	③広報担当者会議を臨時に開催し、FBの積極的活用とホームページの運用状況を検証した。	H30.1

☆掲げた目標の達成に向けて、中期の4年間でどんなことに取り組んできたかを振り返る。
☆「こんなことに取り組みます！」の主な内容について、「いつ」「何を」「どうした」かが具体的にわかるように記述する。
☆H29年度施策評価シートの要素も含めた形で記載してあります。

（2）市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。

該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちづくり事業、まちづくり応援事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①まちづくり協議会の要件を明確化するために「高浜市まちづくり協議会条例」を策定した。	H26.4～
	②市民・地域と市職員のつながりをテーマとした「たかはま大家族フォーラム」を開催した。	H26.11
	③「自治基本条例子ども向け副読本」を活用し、地域との協働により小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。	H26.6～

【総括シートの見方】 みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

平成27年度	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。	H27.6～
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。	H27.6～
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。	H27.5～
平成28年度	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」や自治基本条例の概要について説明を行った。	H28.8
	②市民活動情報を特にフェイスブックを使って積極的に発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。	H28.4～
平成29年度	①市民予算事業交付金（地域内分権推進型）を一括交付金化した。（地域一括交付型）	H29.4～
	②小学6年生を対象とした「山崎町立・高浜小学校・港小学校の2校で実施するとともに、 ★平成29年度を振り返り記載★	H29.10・11
	③より多くの方が活用できるよう地域カルテをオープンデータ化した。	H29.11
(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 アシタのたかはま研究事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①自治体内シンクタンク「アシタのたかはま研究所」を設置した。	H26.4
	②20年後の高浜市や行政サービスのあり方などを見据え、各種の政策データの収集・分析、政策課題の洗い出しなどの調査・研究を行った。	H26.4～
	③「しあわせづくり計画」を市民とともに策定するための準備を進めた。（例：職員を対象とした政策形成能力・課題解決能力向上のためのワークショップ）	H26.7～
平成27年度	①しあわせづくりフォーラムを開催した。	H28.3
	②しあわせづくり計画（本編及び別冊）を策定した。	H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3
平成28年度	①しあわせづくり計画実践プロジェクト（職員版）をスタートし、実践を行った。	H28.5～
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。	H28.6
	③人工知能を活用した子育て情報問合せサービスの実証実験に参加し、人工知能の行政サービスへの活用の可能性について検討した。	H28.8
平成29年度	①高浜市まちづくり研究センターと連携し「ざっくばらんなカフェ」を計6回開催した。	H29.4～
	②行政サービスに ★平成29年度を振り返り記載★ 連携協定を締結し、検討体制を整えた。	H29.11
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。		
該当アクションプラン H26～H29 職員カステップアップ事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①民間企業へ職員を派遣し、習得した業務改善手法を全庁展開した。	H26.4～
	②内部研修として、中堅・若手を対象とした「たかはま地域経営実践塾」や新人職員を対象とした「若手職員成長支援研修」を実施した。	H26.4～
平成27年度	①若手職員成長支援研修（やってみよMyプロジェクト）を開催した。	H27.4～
	②第3期たかはま地域経営実践塾（塾長：大杉覚氏）を開講した。	H27.5～
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。	H27.6～
平成28年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H28.4～
	②地域リーダー養成塾へ職員を派遣した。	H28.5～
	③「若手・中堅職員による職員のための職員研修」実施に向けての検討を行った。	H28.4～

【総括シートの見方】

平成29年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H29.4～
	②組織全体のマネ：★平成29年度を振り返り記載★多」を実施した。	H30.2
	③女性職員の管理職養成研修への派遣や女性活躍推進研修を実施した。	H29.10～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) 情報発信の積極的展開 あらゆる手段での情報提供の積極的展開の必要性が必要である。</p>	<p>広報紙面の効率的な活用や各グループのホームページの充実、フェイスブックの活用度を高めるなど、今ある媒体の有効的な活用方法を見出していくことはもちろん、新たな媒体の発掘や</p> <p>情報発信そのもののあり方を考えるなど、根本的な改革を行う</p>
<p>(2) 地域活動 「地域活動に」</p> <p>☆中期4年間の取組みから見てきた課題や新たな課題を上げ、後期（H30～H33）において、どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、取組みの方向性を記述</p>	<p>い手とした、既存</p> <p>の地域活動の運営にかかる負荷が少なくなるような仕組みづくりについても検討していく。</p>
<p>(3) 「若手・中堅職員」の成長支援と「仕事」の効率化により職員力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後5年間で、現任の部長職が全員退職するなど、さらに職員の若年化が進む。 国において働き方改革に関する議論が進行する中、今後、時間外勤務の削減等、公務員の労働にも大きな変化が生じてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「若手・中堅職員による職員のための職員研修」をはじめとした研修をとおして、入庁後から地域活動を自分ごととして考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容を企画・検討していく。 時間外勤務の多い部署については業務を抜本的に見直すほか、職員一人ひとりが「仕事」の見直し、効率化を図るとともに、職場全体で職員のワークライフバランスを考えた「働き方」に改革していく。



後期基本計画「目標（1）まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場を作ります。	No.1 情報発信パワーアップ事業〔総合政策G〕
市民・地域、行政が得意分野を活かし、...それぞれのフ	No.2. みんなでまちづくり事業
★中期での課題等が後期基本計画の目標やアクションプランに該当しているかを記載していくための環境づくりを進めます。	
職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	No.3 職員カステップアップ事業

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

★平成30年度第1回・2回推進会議においていただいた、中期4年間（H26～H29）の取組みや目標達成状況を踏まえた感想や想い（例：よかった点、改善すべき課題）、今後の取組みにつながるアイデアなどご意見をとりまとめる。

MEMO



目標(1)

まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます



▲まちづくり出前授業

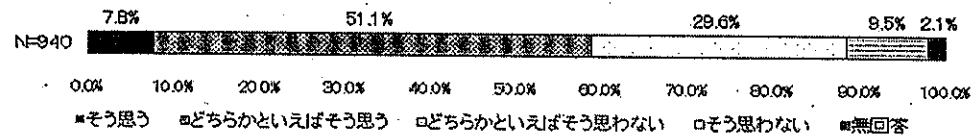
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を創っていくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力して、未来を切り開くチカラへとつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ まちへの愛着や誇りが高まり、まちのことを「自分のこと」として考えています。 ◇ まちづくりの課題や目標が共有され、一人ひとりが自分ができる行動を起こし、まちづくりの輪が広がっています。 ◇ 高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を実感する人が増え、まちに笑顔があふれています。職員は、市民や地域の想いに寄り添いながら、職員力を磨き、課題の解決に向けて積極的に行動しています。

2. 市民意識調査結果

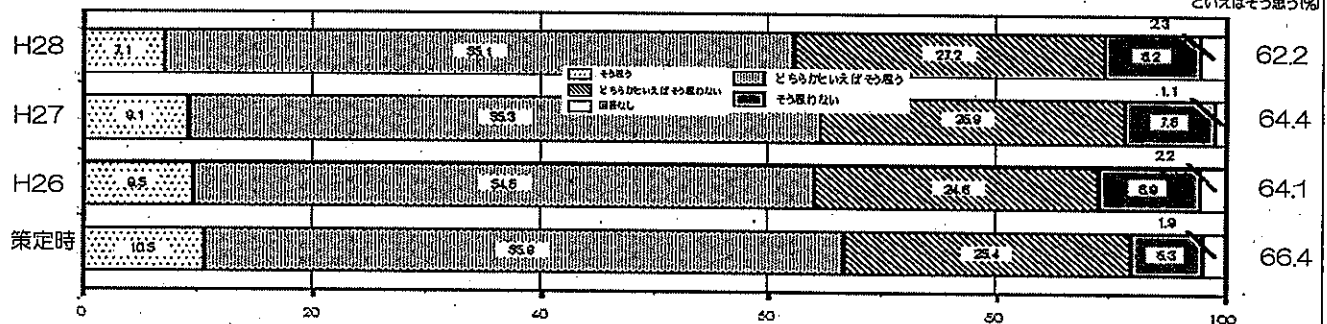
【設問】

まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う



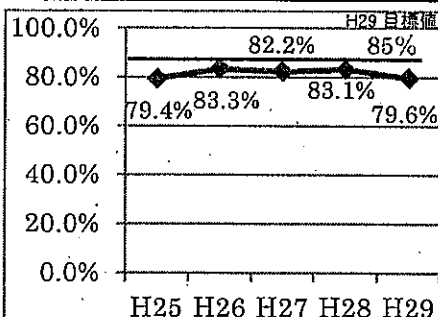
⇒ そう思う+どちらかといえばそう思う (%) 58.9%

そう思う+どちらかといえばそう思う (%)

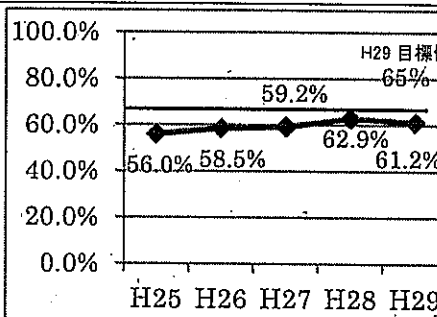


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

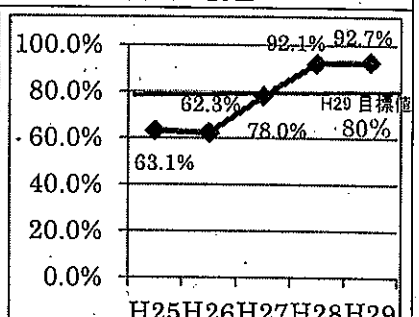
1) いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合



2) 地域活動に参加したことがある人の割合



3) 地域活動に参加したことがある職員の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・「市民意識調査」は中期計画策定時より7.5%低下している。「みんなで目指すまちづくり指標」1)～3)については、1)は横ばい。2)は5.2%の上昇。3)は29.6%の上昇となっており、3)については目標値も達成できた。
- ・「みんなで目指すまちづくり指標」2)においては、中期計画策定時と比べ、すべての世代において地域活動への参加率は上昇しているが、「市民意識調査」結果においては中期計画策定時と比べ、20代で15.5%、40代で10.7%、50代で14.6%の低下となっており、これは地域活動への参加者は増えたが、参画者(担い手)が不足しているといったまちづくりの現状が反映されていると感じています。地域活動への参加の機会を増やし、参加を促すだけでは、まちへの愛着の向上や市民みんなが連携・協力したまちづくりにはつながっていかないと分析できる。地域活動への参加意識が高まってきている中、参加者側から参画者(担い手)側になっていただけるような仕掛けが、いつまでも住み続けたい高浜をみんなで連携・協力していくには、必要不可欠である。

II. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います。

該当アクションプラン H26～H29 情報発信パワーアップ事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①部局ごとの重点事業を公表するパンフレット「〇〇部長の実行宣言」を作成し、各まちづくり協議会で周知するとともに、公共施設に設置した。	H26.7
	②市公式フェイスブックを立ち上げた。	H26.9
	③「自分自身が動くことがしあわせ」をテーマとした別冊「広報たかはま」新春特別号を発行した。	H26.12
平成27年度	①ホームページのトップページリニューアルを行った。	H27.10
	②市政情報を手軽に入手することができるように、広報1/1号より「広報紙」の配信を開始した。	H28.1
平成28年度	①広報発行により市政やまちの情報を提供し、各所管と協議しながら重要なお知らせを特集にして紹介した。	H28.4～
	②市政記者への情報提供や、近隣市広報との連携で市外への情報発信を行った。	H28.4～
	③ホームページに翻訳機能を追加した。	H28.4
平成29年度	①「〇〇部長の実行宣言」平成29年度版を作成・公表した。	H29.4
	②市公式ホームページ内「市長室へようこそ」をリニューアルし、市長の公務や表敬訪問の写真、主な記者発表資料の掲出を行うようにして、FBの活用とともに即時的な公表につとめた。	H29.9
	③広報担当者会議を臨時に開催し、FBの積極的活用とホームページの運用状況を検証した。	H30.1

(2) 市民・地域・行政がそれぞれの得意分野を活かし、ともにまちづくりに取り組んでいくための環境づくりを進めます。

該当アクションプラン H26～H29 みんなでまちづくり事業、まちづくり応援事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①まちづくり協議会の要件を明確化するために「高浜市まちづくり協議会条例」を策定した。	H26.4～
	②市民・地域と市職員のつながりをテーマとした「たかはま大家族フォーラム」を開催した。	H26.11
	③「自治基本条例子ども向け副読本」を活用し、地域との協働により小学6年生を対象に「出前授業」を実施した。	H26.6～

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

平成27年度	①まち協サミットにおいて、交付金制度の見直しを協議した。	H27.6～
	②まちづくり協議会特派員が中心となり、地域計画の見直しを支援した。	H27.6～
	③自治基本条例検証委員会を開催し、検証報告書を完成させ、市長へ提出した。	H27.5～
平成28年度	①若手職員成長支援研修において、新人職員を対象に「参画・協働・情報共有のガイドライン」や自治基本条例の概要について説明を行った。	H28.8
	②市民活動情報を特にフェイスブックを使って積極的に発信し、まちづくり活動の成果や意義を伝えた。	H28.4～
平成29年度	①市民予算枠事業交付金（地域内分権推進型）を一括交付金化した。（地域一括交付型）	H29.4～
	②小学6年生を対象にした「出前授業」を希望制とし、高浜小学校・港小学校の2校で実施するとともに、高浜カリキュラムへの連動について検討・調整した。	H29.10・11
	③より多くの方が活用できるよう地域カルテをオープンデータ化した。	H29.11
(3) “大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 アシタのたかはま研究事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①自治体内シンクタンク「アシタのたかはま研究所」を設置した。	H26.4
	②20年後の高浜市や行政サービスのあり方などを見据え、各種の政策データの収集・分析、政策課題の洗い出しなどの調査・研究を行った。	H26.4～
	③「しあわせづくり計画」を市民とともに策定するための準備を進めた。（例：職員を対象とした政策形成能力・課題解決能力向上のためのワークショップ）	H26.7～
平成27年度	①しあわせづくりフォーラムを開催した。	H28.3
	②しあわせづくり計画（本編及び別冊）を策定した。	H28.3
	③高浜市人口ビジョン及び高浜版総合戦略を策定した。	H28.3
平成28年度	①しあわせづくり計画実践プロジェクト（職員版）をスタートし、実践を行った。	H28.5～
	②高浜市まちづくり研究センターと連携しざっくばらんなカフェをスタートした。	H28.6
	③人工知能を活用した子育て情報問合せサービスの実証実験に参加し、人工知能の行政サービスへの活用の可能性について検討した。	H28.8
平成29年度	①高浜市まちづくり研究センターと連携し「ざっくばらんなカフェ」を計6回開催した。	H29.4～
	②行政サービスにICTを活用するため、ソフトバンク㈱と地域包括連携協定を締結し、検討体制を整えた。	H29.11
(4) 現場を第一に考え、問題意識を持って課題に積極的に取り組むため、職員力を高めます。		
該当アクションプラン H26～H29 職員カステップアップ事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①民間企業へ職員を派遣し、習得した業務改善手法を全庁展開した。	H26.4～
	②内部研修として、中堅・若手を対象とした「たかはま地域経営実践塾」や新人職員を対象とした「若手職員成長支援研修」を実施した。	H26.4～
平成27年度	①若手職員成長支援研修（やってみよMyプロジェクト）を開催した。	H27.4～
	②第3期たかはま地域経営実践塾（塾長：大杉寛氏）を開講した。	H27.5～
	③全庁的な2S活動・標準化活動を実施した。	H27.6～
平成28年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H28.4～
	②地域リーダー養成塾へ職員を派遣した。	H28.5～
	③「若手・中堅職員による職員のための職員研修」実施に向けての検討を行った。	H28.4～

平成29年度	①若手職員成長支援研修を実施した。	H29.4～
	②組織全体のマネジメント力の強化に向けた「管理職リーダー研修」を実施した。	H30.2
	③女性職員の管理職養成研修への派遣や女性活躍推進研修を実施した。	H29.10～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 情報発信の積極的展開</u> あらゆる手段での情報提供の積極的展開の必要性が必要である。	広報紙面の効率的な活用や各グループのホームページの充実、フェイスブックの活用度を高めるなど、今ある媒体の有効的な活用方法を見出していくことはもちろん、新たな媒体の発掘や情報発信そのもののあり方を考えるなど、抜本的な改革を行っていく。
<u>(2) 地域デビューのきっかけづくり</u> 「地域活動に参加したことがある」という市民は増えてきているが、地域活動の運営側（担い手）が不足しており、このままでは活動の継続性が将来的には困難になる。	若い世代・定年を迎える世代に対して、地域活動の担い手として関わっていただけるようなきっかけを創出していく。また、既存の地域活動の運営にかかる負荷が少なくなるような仕組みづくりについても検討していく。
<u>(3) 「若手・中堅職員」の成長支援と「仕事」の効率化により職員力を高める</u> <ul style="list-style-type: none"> ・今後5年間で、現任の部長職が全員退職するなど、さらに職員の若年化が進む。 ・国において働き方改革に関する議論が進行する中、今後、時間外勤務の削減等、公務員の労働にも大きな変化が生じてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「若手・中堅職員による職員のための職員研修」をはじめとした研修をとおして、入庁後から地域活動を自分ごととして考える機会を設け、“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで各階層に応じた内容を企画・検討していく。 ・時間外勤務の多い部署については業務を抜本的に見直すほか、職員一人ひとりが「仕事」の見直し、効率化を図るとともに、職場全体で職員のワークライフバランスを考えた「働き方」に改革していく。

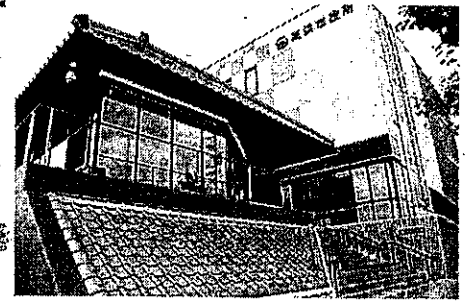


後期基本計画「目標（1）まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場を作ります。	No.1 情報発信パワーアップ事業〔総合政策G〕
市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。	No.2 みんなでまちづくり事業
職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。	No.3 職員カステップアップ事業

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

目標 (2)

将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います



▲市役所庁舎と会議棟

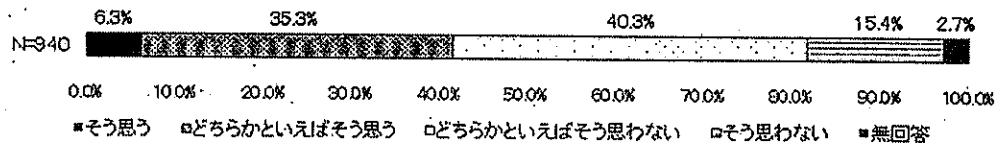
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	歳入の大幅な増加が見込めない中、行政サービスを着実に実施していくため、中長期的な視点に立ち、公共施設のあり方など将来にわたる課題に、計画的に取り組むとともに、より効果的な財政運営を行っていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市税などの自主財源が安定的に確保され、計画的な財政運営が行われています。 ◇ 将来的な公共施設のあり方について、市民の関心が高まっています。 ◇ 市の財政状況に対する市民の理解が深まっています。 ◇ 市民ニーズをふまえ、効率的かつ効果的に行政サービスが提供されています。

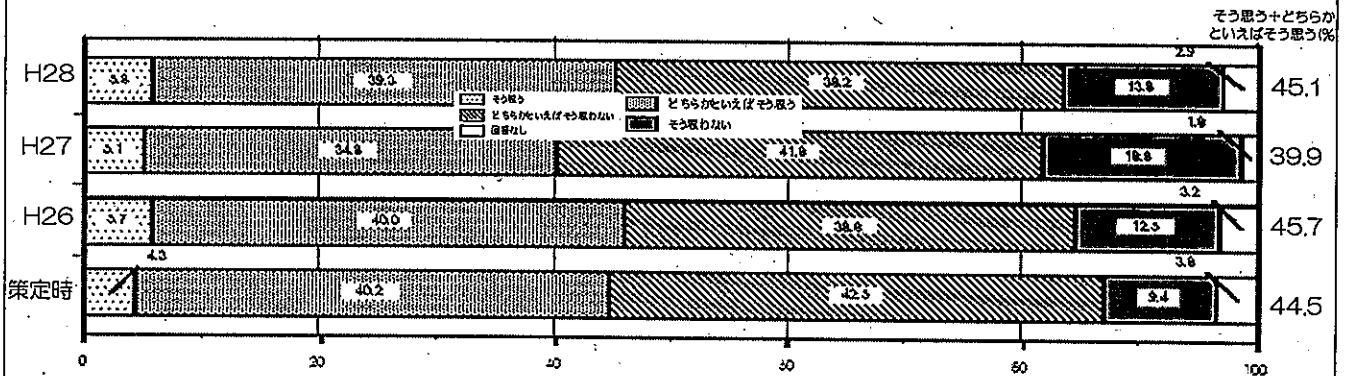
2. 市民意識調査結果

【設問】

将来を見据え、計画的で効果的な財政運営が行われているまちだと思う

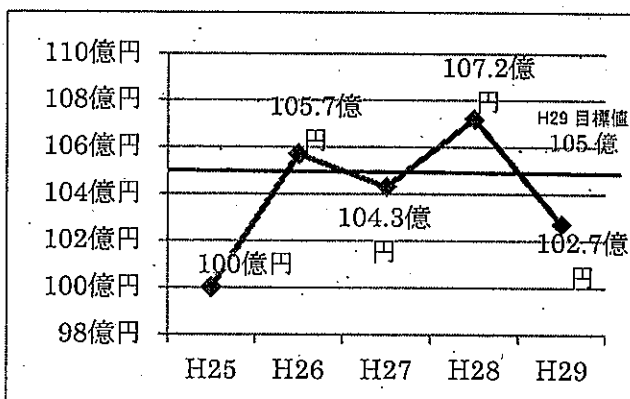


⇒ そう思う+どちらかといえばそう思う (%) 41.6%

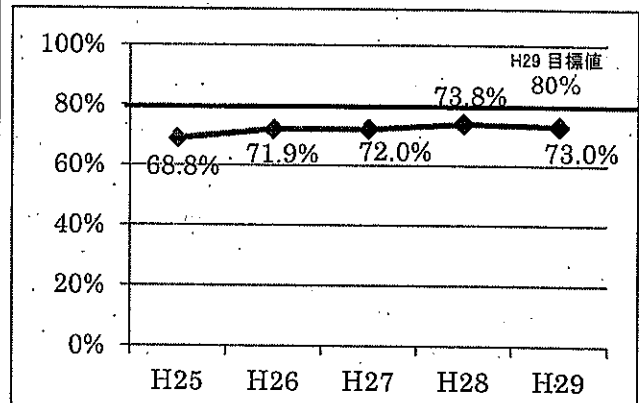


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 自主財源の額



2) 市の財政状況に関心を持っている人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

○市民意識調査「将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います」41.6%（前年度比▲3.5%）

- ・調査結果については、年度ごとにばらつきがある。50歳代を除いたすべての年代が減少となった。そうした中でも、「そう思う」という方は6.3%（前年度比+0.5）に増えている。
- ・将来を見据えた財政運営を行っている状況をどのように伝えていくのか。発信の内容や仕方などを市民の視点を加えて検討していく必要がある。

○指標1「自主財源の額」102.7億円（前年度比▲4.5億円 目標値比▲2.3億円）

- ・個人市民税及び固定資産税で前年度比約1.6億円増加する一方で、法人市民税では、28年度に特別な要因で一時的に発生した特別利益が皆無（▲約8億円）となったことが主な要因である。
- ・引き続き、市税等の徴収率向上や新たな工業用地の創出に向けた取組みを進めるとともに、施設使用料の見直しなど新たな取組みを進める必要がある。

○指標2「市の財政状況に関心を持っている人の割合」73.0%（前年度比▲0.8% 目標値比▲7.0%）

- ・25年度の調査以降、年々上昇してきたが、はじめて微減となった。
- ・50歳代以降の関心が低くなる一方、10歳代から40歳代の若い世代の関心は高まっている。中でも、10歳代は前年度比36.9ポイントのプラスと大きく上昇している。継続的にわかりやすい財政情報の発信に取り組んできた成果と捉えている。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）市税収入など、自主財源の確保に努めます。

該当アクションプラン H26～H29 【No.6】受益者負担適正化事業（使用料・手数料の見直し）
【No.7】市税等徴収事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	① 愛知県西三河地方税滞納整理機構と協働し滞納解消に努めた。	H26.5～ H27.2
	② 公共施設の使用料改定額の試算を行った。	H26.9～ H27.2
	③ 「使用料・手数料見直し（改定）」に係る基本方針（中間素案）ほか、プロジェクトの活動報告を部長会で行った。	H27.3
平成27年度	① 愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携し滞納整理を実施	H27.4～
	② 使用料・手数料見直し（案）に係る基本方針（案）及び試算額をとりまとめた。	H27.8・10
平成28年度	① 受益者負担の考え方において、新公会計の視点により、他市事例をふまえ、フルコスト方式に変更することを検討	H28.6
	② 新公会計導入にかかるシステムの選定と補正予算を計上	H28.6
	③ 新公会計システム売買契約を締結	H28.9
	④ 新公会計システムによる財務四表作成作業中	H29.3
	⑤ 愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携して滞納整理を実施	H28.4～
	⑥ 実態調査・財産調査・差押の強化	H28.4～
平成29年度	① 愛知県西三河地方税滞納整理機構・愛知県名古屋東部県税事務所と連携して滞納整理を実施	H29.4～
	② 職員の滞納整理業務をスキルアップするため、徴収指導員（国税OB）を採用	H29.8
	③ 新公会計制度に基づき、施設別行政コスト計算書の作成に着手	H30.1～
	④ 「公共施設使用料の見直しに関する基本方針（案）」を策定	H30.3

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

(2) 限られた財源を重点的、効果的に配分するとともに、継続して行政サービスが提供できるよう、既存サービスの見直しに取り組みます。		
該当アクションプラン H26～H29 【No.8】 行政サービス点検事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①他市とのサービス水準比較をするためアンケート調査項目(案)の抽出(ex.1,000項目)を行った。	H26.4～8
	②今後20年間を見据えた財政負担の見直しと財源確保の目標を提示する「長期財政計画」の作成について検討しその中で行政サービスのあり方を検討することとした。	H27.3
平成27年度	①行政サービスあり方検討部会を設置し、事業費見直し計画(案)の検討及び作成に着手	H27.5
	②「事業費見直し計画」を含む「長期財政計画」の公表	H28.3
平成28年度	①不交付団体となったことから、財源の手当て策を検討	H28.8
	②「長期財政計画」の検証及び修正項目の洗い出し	H28.8
	③サマーレビューの実施	H28.8
	④予算編成方針に財源手当て(経常経費削減1億円)を明記	H28.9
	⑤長期財政計画(改訂版)の公表	H29.3
平成29年度	①サマーレビューを実施し、その結果に基づいた平成30年度当初予算の編成を実施	H29.7～H30.2
	②長期財政計画(改訂版)の公表	H30.3
(3) 将来の公共施設のあり方について、市民とともに問題意識を共有しながら、具体的な検討を進めます。		
該当アクションプラン H26～H29 【No.9】 公共施設あり方計画推進事業、公共施設等適正化事業、公共施設総合管理計画推進事業 H26～H29 【No.10】 市庁舎あり方公募事業、市役所本庁舎整備事業 H26～H29 【No.11】 高浜小学校整備事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①公共施設あり方計画(案)を作成し、市としての方針をまとめた。	～H26.6
	②高浜小学校整備事業において、市民を交えたワークショップを開催し、情報共有及び提供サービスについて検討した。	H26.10～ H27.3
	③市役所本庁舎整備事業において、事業者と基本協定及び事業契約を締結した。	H27.3
平成27年度	①市役所本庁舎建設に着手した。	H27.11
	②高浜小学校等整備事業に係る基本計画・実施方針(案)募集要項(案)等公表	H28.2・3
	③インフラ資産検討部会を設置し、インフラ長寿命化方針を取りまとめ、公共施設総合管理計画を策定した。	H28.3
平成28年度	①公共施設総合管理計画推進本部会議、検討部会の開催	H28.4～
	②公共施設のあり方に関する個別の説明を実施	H28.5～
	③勤労青少年ホーム跡地活用検討業務委託料の6月議会上程	H28.6
	④公共施設マネジメント推進委員会の開催	H28.9・29.3
	⑤新庁舎に対応した適切な庁内文書量への削減	H28.4～
	⑥特定事業の選定及び公表(債務負担行為 6月議会上程)	H28.6
	⑦入札の公告、入札説明書等の公表 入札説明書等に関する説明会の開催	H28.7
平成29年度	①高浜小学校等整備事業で教職員・保護者・児童・利用者団体等への事業説明、意見交換等の実施。また、計画どおり工事に着手	H29.4～
	②勤労青少年ホーム跡地活用事業で、南テニスコート利用者説明会、希望団体へのトーク&トークを実施	H29.5・6・11

	③高浜市公共施設総合管理計画（公共施設推進プラン及びインフラ施設推進プラン等を含む。）見直し（案）のパブリックコメントを実施	H30.2
	④高浜市公共施設総合管理計画（公共施設推進プラン及びインフラ施設推進プラン等を含む。）の改定及び公表と、見直し案に対する意見及び回答の公表	H30.3
（４）市民の知りたい、市民に知ってもらいたい財政情報を積極的に提供します。		
該当アクションプラン H26～H29 【No.12】 わかりやすい財政情報提供事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①広報に（当初予算、決算、借金時計、貯金通帳）を掲載した。	H26.4～11
	②従来の「わかりやすい予算書」を踏襲した「平成27年度版当初予算の概要」（案）を作成した。	H27.3
平成27年度	①「平成27年度当初予算の概要」・「平成26年度決算の概要」冊子の発行	H27.4・11
	② 長期財政計画（事業費見直し計画を含む。）の公表	H28.3
平成28年度	①「平成28年度当初予算の概要」冊子の発行	H28.4
	②「たかはまの財政」広報紙に掲載	H28.7
	③「平成27年度決算の概要」冊子の発行	H28.11
	④「平成28年度予算の使いみち」の作成・公表	H28.11
平成29年度	①「平成29年度当初予算の概要」冊子の発行	H29.4
	②中学生向け財政情報「平成29年度予算の使いみち」の作成・公表	H29.5
	③「平成28年度決算の概要」冊子の発行	H29.12
（５）市民ニーズを反映した行政サービスを展開し、行政サービスの向上につながるものについては、国・県・近隣市などをはじめとした関係機関との広域的な連携を行います。		
該当アクションプラン H26～H28 【No.13】 定住自立圏推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①刈谷市美術館において、かわら美術館企画展チケットを販売した。	H26.4～ H27.3
	②定住自立圏共生ビジョン懇談会において各分野の進捗状況の確認を行った。	H26.6～
平成27年度	①刈谷ハイウェイオアシスで、交流イベント「きぬうら☆うらら音楽祭」を開催した。	H27.10
	②（仮称）第2次衣浦定住自立圏共生ビジョン策定にあたり、現行ビジョンに掲げる各事業の評価・課題の洗い出しを行った。	H27.10～ H28.3
平成28年度	①構成市町のボランティア活動団体について知っていただくため、「ご当地キャラGO！～つながるネットでボランティア～」をイオンモール東浦で開催した。	H28.10
	②衣浦定住自立圏関係市町長会議を開催し、衣浦定住自立圏共生ビジョン改訂版が承認された。	H29.2
	③観光分野における取組みとして、るるぶとコラボした小冊子「きぬうら」を発行した。	H29.2
平成29年度	①衣浦定住自立圏共生ビジョン推進講演会「人口減少時代を見据えたまちづくり」を共同開催し参加した。	H30.2
	②構成市町のボランティア活動団体について知っていただくため、「つながるネットでボランティア Vol.2」を知立市中央公民館で開催した。	H30.3

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p><u>(1) 公共施設総合管理計画の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設総合管理計画を着実に推進していくため、複合化のモデル事業を進めているが、単に総量圧縮というハード面だけで考えられた計画ではなく、ソフト面においても、本計画が果たす役割を市民の方に理解していただく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高浜小学校等整備事業について、学校を核としたまちづくりを進めるための事例となるよう利用者等と意見交換を進めていく。
<p><u>(2) 滞納状況に応じた市税の徴収</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで財産処分による滞納整理により徴収率の向上に努めてきたが、今後は滞納状況に応じて割納付、執行停止、多重債務対策と言った救済措置も併せて実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 滞納整理にかかる知識以外の幅広い知識を吸収させながら徴収困難事案に対応できる人材育成に努めていく。
<p><u>(3) 健全な財政運営への取り組み強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 普通交付税不交付団体となり、より自立度の高い財政運営が求められている。加えて、公共施設総合管理計画の推進など、今後ますます財政需要は増えることが予想される。さらに、国の財政状況も厳しく、補助金等の削減が予想され、市の負担は増える一方である。 	<ul style="list-style-type: none"> 財源をいかに生み出すか、限られた財源をいかに重点配分するか、高浜市らしい身の丈にあった財政運営の確立を目指す。



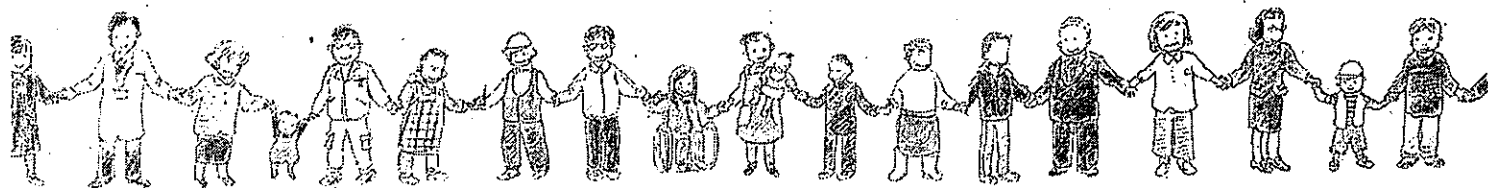
後期基本計画「目標(2) 将来を見据えた計画的・効果的な財政運営を行います」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。	No.4 財政情報発信事業〔財務グループ〕
工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。	No.5 受益者負担の適正化事業〔財務グループ〕 No.6 ICTでまちづくり推進事業 〔ICT推進グループ〕 No.7 経常経費見直し事業〔財務グループ〕
公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。	No.8 公共施設総合管理計画推進事業 〔行政グループ〕 No.9 高浜小学校等整備事業 〔学校経営グループ 他〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

--

基本目標

2



目標 (3)

人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます

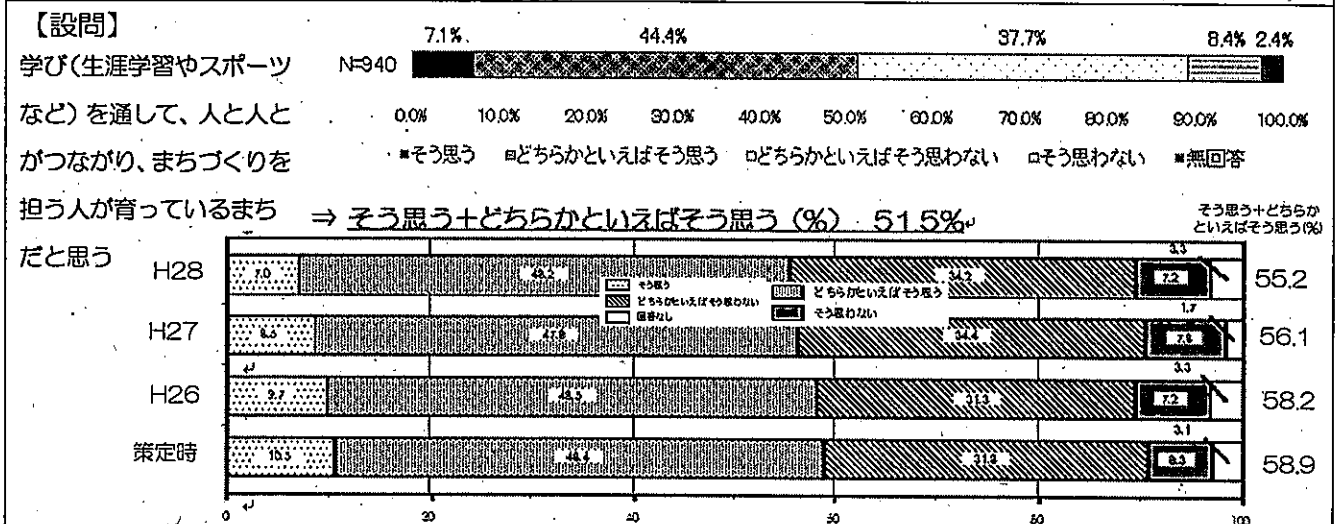


▲高浜市誌編さん事業（「聞き書き」の実践）

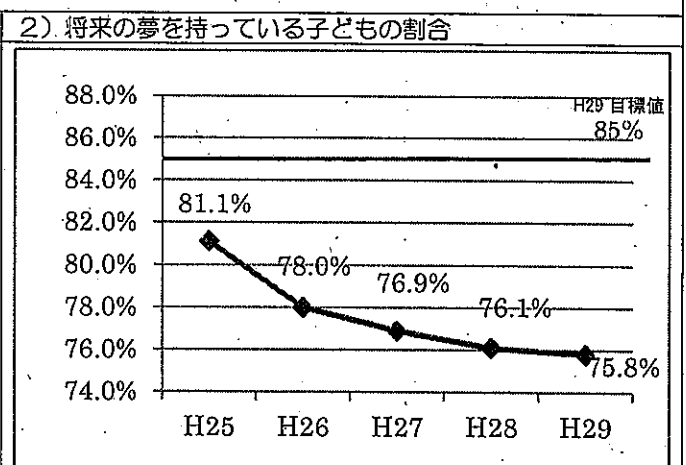
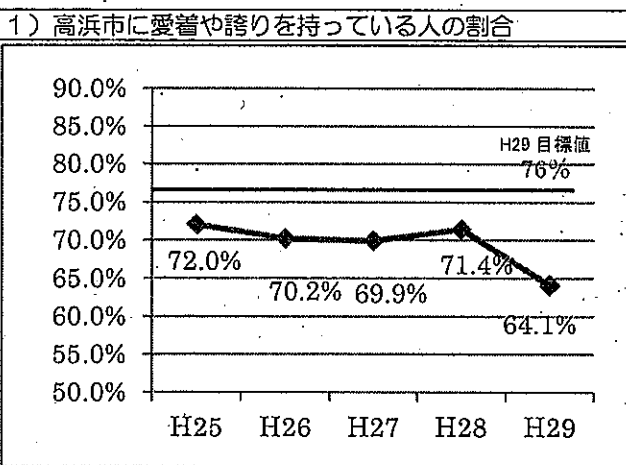
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とが つながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「ま ちづくり」へと動きをつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語 り継いでいます。 ◇ 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。 ◇ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持 つ市民が増えています。 ◇ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。

2. 市民意識調査結果



3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- 市民意識調査「学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う」51.5%（計画策定時比▲7.4ポイント）
- 策定以来、年々減少しているが、その一因として生涯学習施設の再編が影響していると思われる。将来を見据えて取り組んでいることを、丁寧に伝えていく必要がある。行政だけでなく、市民・団体・事業者など多様な主体、公共施設に限らず、多様な場で学びが行われることによって、人と人とのつながりが生まれ、輪が広がっていく。“学びを通してまちづくりを担う人が育つ”段階に至るまでには時間がかかるが、まちづくり協議会などの地域団体、文化・スポーツ団体、事業者や生涯学習施設等と本市が目指す生涯学習の姿を共有し、連携・協力しながら粘り強く取り組みたい。
- 指標1「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」64.1%
（計画策定時比▲7.9ポイント 目標値比▲11.9ポイント）
- 報告書によれば、年代別に見た場合、50代以下は実績値を下回る傾向にある。「まちへの愛着・誇り」は「高浜市をもっといいまちにしていこう」という、まちづくりの原動力となる。新しい住民も増えており、まずは「高浜のことを知る」「魅力に触れる」ことが重要となる。「情報・資料を提供する」「語る」「調べる」「関わる」など多様な参加・参画機会を設けながら、地域の良さや魅力を掘り起こし、発信していくことにより、市民の「まちへの愛着・誇り」の機運を醸成したい。
- 指標2「将来の夢を持っている子どもの割合」75.8%
（計画策定時比▲5.3ポイント 目標値比▲9.2ポイント）
- 策定以来、年々減少しているが、報告書によれば、特に学年が上がるにつれて割合は減少傾向にある。年齢や経験を重ねるにつれ、自分の適性や社会の現実を知ることになり、これまで抱いていた夢との不一致を感じる子どもが増えていることが考えられる。将来の夢を持つことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していくという意欲を高め、成長に資するものである。生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも連携し、各種学習・文化・スポーツ活動などを通して、まなびのエネルギーとなる好奇心や感動、楽しい成功体験が得られるように努めていきたい。

II. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

(1) 地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。		
該当アクションプラン H26 学びによるつながり創出事業 H27~29 タカハマ!まるごと宝箱事業 / H29 市誌編さん事業		
	何を・どうした	いつ
平成26年度	①市民とともにまちの魅力・自慢を掘り起こし、語り継ぐ取組みとして、タカハマ!まるごと宝箱事業を立ち上げた。様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催した。	H26.7~H28.3
	②愛知教育大学との連携公開講座（地域の歴史・文化について民俗学してみよう）、図書館との協働による高浜ふるさと講座（高浜市における土管作りのはじまり/写真で見る衣浦大橋周辺の今昔）を開催した。	H26.10 H26.11 H27.2
平成27年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。	H27.4~H28.3
	②名古屋市立大学と連携して三州瓦にまつわる聞き取り調査を行い、「かわらフォーラム」の開催、聞き書き冊子「たかはまとかわら」を編集・発行、冊子の「おひろめ会」を開催した。	H27.6~H28.3
平成28年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。	H28.4~H29.2
	②これまでの開催内容の記録を冊子にまとめたほか、開催資料を図書館等で閲覧できるようにした。	H28.10~H29.3
平成29年度	①高浜市の歴史・文化・自然・交通など様々なテーマを設定し、調査した市民を交えた学び合い・語り合いの会を開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。	H29.4~H30.3
	②(3) 参照	

基本目標Ⅱ 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。		
該当アクションプラン H26 未来にはばたく人材育成事業 / H27 こども・若者成長応援事業 H28・29 タカハマ!まるごと宝箱事業 / H29 市誌編さん事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①異年齢の子どもたちが交流しながら、考え抜く力・挑戦意欲・創造性等を育むたかはま夢・未来塾講座を実施した。	H26.4~H27.3
	②中高校生を含む市民スタッフと市民映画「タカハマ物語」第2弾作戦会議を開催した。シナリオ・撮影・演技ワークショップの開催、出演者オーディション、製作発表会など、製作に向けた準備を進めた。	H26.7~H27.3
平成27年度	①中高生スタッフを中心に、市内各所で「タカハマ物語2 心のツバサ」の撮影を行い、上映会を開催した。	H27.5~H28.2
	②鬼みちまつり、大家族たかはま会議、市民駅伝、シティマラソンなどに参加し、「タカハマ物語2」製作活動を紹介するとともにイベントを盛り上げた。	H27.10~H28.1
平成28年度	① (1) 参照	
平成29年度	① (1)・(3) 参照	
(3) 地域の良さ(歴史、文化、伝統など)を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。		
該当アクションプラン H26 学びによるつながり創出事業 / H27 タカハマ!まるごと宝箱事業 H28・H29 タカハマ!まるごと宝箱事業、市誌編さん事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	① (1) 参照	
平成28年度	①市民等で構成する「市誌編さん委員会」を立ち上げ、編さん基本方針や編さん体制などの検討を行った。	H28.11・H29.3
	②市誌の収録内容の検討や調査執筆員の選定、部会編成を行った。	H28.6~H29.3
平成29年度	①市民や学識経験者等で構成する「市誌編集委員会」を立ち上げ、本格的に市内外での資料調査及び執筆活動を開始した。	H29.6~H30.3
	②タカハマ!まるごと宝箱事業と市誌編さん事業との連携企画として、調査執筆員による講座や公開調査(聞き書き)を実施した。	H29.7~H30.3
	③市民や名古屋市立大学と連携・協力し、『新編高浜市誌 高浜市のあゆみ資料』の第一弾「聞き書き 吉浜の養鶏・高取のくらし」を編集・発行した。	H29.8~H30.3
(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。		
該当アクションプラン H26・27 高浜緑地グランド整備事業、生涯スポーツ推進事業 H28 (仮称)高浜緑地整備事業、生涯スポーツ推進事業 H29 高浜芳川緑地整備事業、生涯スポーツ推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働でのスポーツ行事や教室・体験会等を実施した。	H26.4~H27.3
	②(仮称)高浜緑地上部利用について、愛知県衣浦港務所と定期的に打合せを実施した。また、市民と検討会を立ち上げ、ワークショップを開催した。	H26.4~H27.3
平成27年度	①たかはまスポーツクラブ・高浜市体育協会・高浜ボートクラブ・高浜市スポーツ推進委員会と協働でのスポーツ行事や教室・体験会等を実施した。	H27.4~H28.3
	②(仮称)高浜緑地の整備に向け、スポーツ団体や渡し場かもめ会等から利用に対する意見を聴き、詳細設計を完成させた。	H27.4~H28.3
平成28年度	①(仮称)高浜緑地の整備に向け、愛知県衣浦港務所と、県及び市実施工事の内容やスケジュールについて調整した。また、利用方法等に関して、関係団体を交えて意見交換を行った。	H28.4~H29.3
	②機能移転を予定している体育施設について、利用状況等の分析を行うとともに、利用者やテニス協会等と意見交換を行った。	H28.4~H29.3

平成29年度	①高浜芳川緑地多目的広場を供用開始した。スポーツ団体等と協力してオープニングイベント（少年野球教室、少年野球大会、サッカー小学生市民体育大会など）を開催した。	H29.7
	②平成29年度内に閉館・閉場をした体育施設（南テニスコート、青少年ホーム）について、利用者やテニス協会等と施設利用に関する調整を行った。	H29.4～H30.3
	③財産の有効活用と民間活力を活かしたスポーツ拠点の整備に向け、勤労青少年ホーム跡地活用事業を推進し、跡地活用事業者の選定を行った。	H29.4～H30.3

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<p>(1) まちへの愛着・誇りを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の共有財産である資料等の散逸・消失を防ぎ、先人たちの歩みやまちへの想いを知り、市の財産として将来へと伝え、活かしていくことが大切である。 本市では人口が緩やかに増加しているが、大半が社会増(転入)である。まちづくりの原動力となる「高浜市が好き」という想いを高めていくため、まちの魅力・自慢を知る・触れる・関わる機会を創出していくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市誌編さんやタカハマ！まるごと宝箱などを通じて、資料を探す・提供する、調べる、まとめる、写真や映像に残す、まちのことについて語り合うなど、それぞれの興味・関心・特技などに応じて、様々な世代が関わり合うことができる機会を創出する。 ◇市民が様々な魅力・自慢を知ることによって好奇心や意欲を喚起し、学んだこと・調べたことを「伝えたい」「誰かの役に立ちたい」「住んでいるまちをより良いものにしたい」といった動きを広げていく。
<p>(2) 学んだ成果の社会等への還元</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分のための学び」にとどまることなく、学んだり体験したことを「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせる機会を創出することが大切である。 将来、教える側・活動を担う側に回るといった循環を見据え、市民（特に子ども・若者）の好奇心や意欲の高まりにつながる講座・体験・事業などに取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇活動の担い手・教え手の掘り起こしや活躍機会の創出を、市民団体・地域・事業者・生涯学習施設と連携・協力しながら取り組む。 (例) たかはま夢・未来塾サポーター、美術館アートサポートメンバー、図書館ボランティア、タカハマ！まるごと宝箱発表者、地域が主体となった講座の講師 など
<p>(3) スポーツ・レクリエーションを通じた市民交流の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康寿命の延伸が重要視されており、若い頃からスポーツや健康づくりの習慣を身につけることが大切である。 子どもから年配の方まで、初心者も熟練者も、運動が得意な方も苦手な方も、また、時間や場所を問わず、あらゆる方々が生涯を通じてライフスタイルに合わせて実践できるスポーツ・レクリエーションの普及が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市民やスポーツ団体等と連携しながら「ポッチャ」「ファミリーバドミントン」「ノルディックウォーキング」など、年齢・性別を問わず「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気軽に楽しめるニュースポーツの普及、機会充実に取り組む。 ◇勤労青少年ホーム跡地活用事業や高浜小学校等整備事業などにより、スポーツを通じた市民交流拠点の整備・再編を推進する。



後期基本計画「目標(3)「学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。	No.10 市誌編さん事業 〔文化スポーツグループ〕
市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。	No.11 学び合い・高め合い事業 〔文化スポーツグループ〕
「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	No.12 生涯スポーツ推進事業 〔文化スポーツグループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

目標（４）

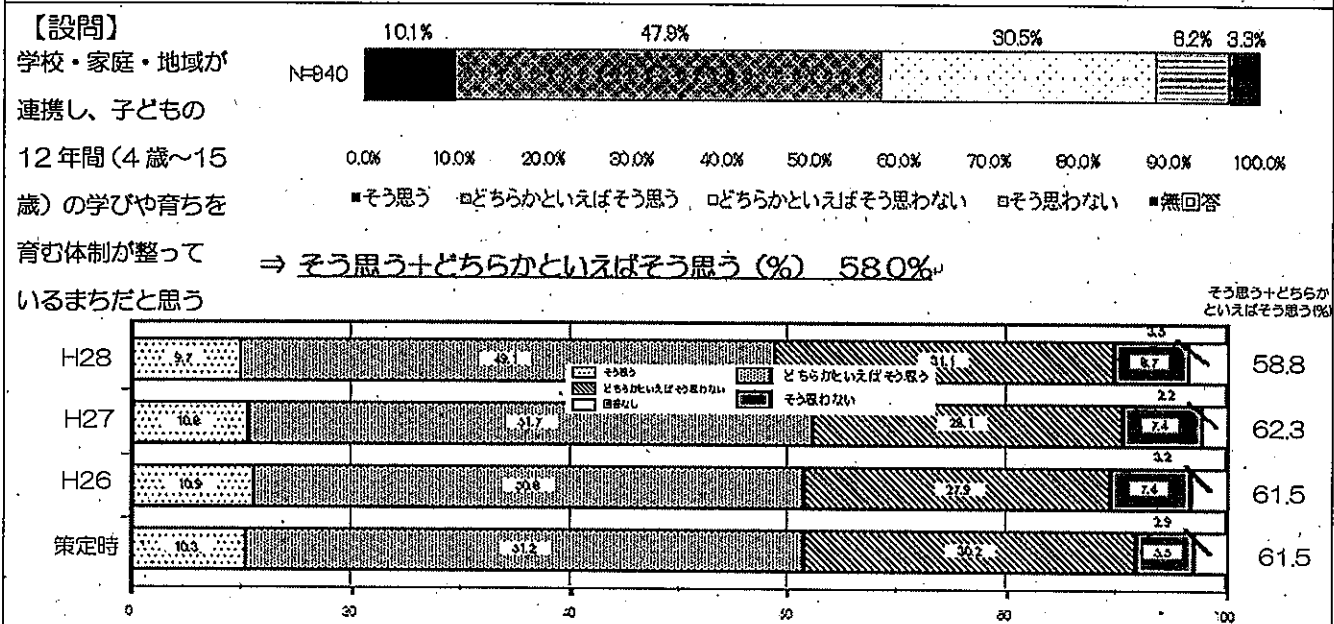
学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます



I. 目標と目標の達成状況

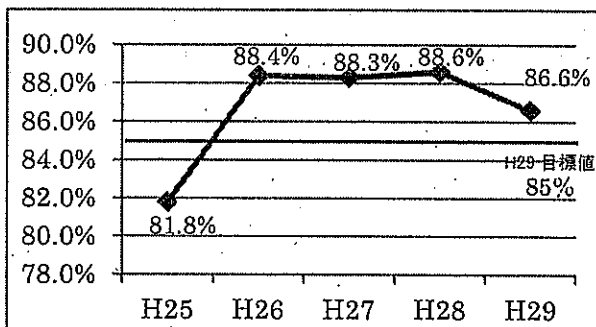
1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ◇ 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかわりながら学んでいます。 ◇ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。

2. 市民意識調査結果

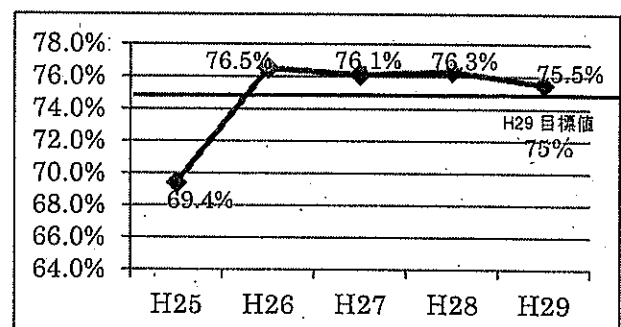


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 学校が好きと感じている子どもの割合



2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析(要因・課題等)

- ・4年間連続して指標の目標値を達成できたのは、学校が子どもたちにとって安心して学べる場所となっているからといえる。市内の教職員が子どもたちの様子や指導観、指導技術等について情報交換する場をもつことで、子どもをより深く理解したり、教職員の指導力・授業力の向上につながったりして、子どもの学校を好きという気持ちや学習意欲を高めることができた。
- ・今後は、より多くの地域の人たちが、子どもたちが高浜市のよさを実感して成長していると感じてもらうために、地域とのかかわりをさらに深め、子どもの12年間の学びや育ちの体制を整えていく。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み(「こんなことに取り組みます!」の実施内容)

(1) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。

該当アクションプラン H26~H29 異校種間連携推進事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①異校種参観(年長・小1・小6・中1担任)や異校種間連携事業を実施した。(幼保小連携、小中連携)	H26.4~ H27.3
	②異校種間連携推進委員会を開催し、各校連携の状況報告を行った。(年5回)	H26.5~ H27.3
	③「中1ギャップ」に関する実態調査を行い、分析結果を報告した。	H26.6 H27.1
平成27年度	①異校種参観を年長、小1、小6、中1担当教諭で行った。	H27.5~
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、異校種間連携推進委員会にて分析結果を報告した。	H27.6 調査 H27.8 報告
	③異校種連携事業・異校種参観の成果と課題をまとめ、周知した。	H28.1
平成28年度	①異校種参観を対象職員で行った。	H28.5~
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H28.6
	③幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。	H28.5~
	④幼保小中の学習指導法を集約した。	H28.5~
	⑤「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配付した。	H28.5
平成29年度	①異校種参観を対象職員で行い、参観者が学んだことをまとめ、周知した。	H30. 2
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H29. 8
	③異校種連携事業の実施について成果と課題をまとめ、改善を図った。	H30. 2

(2) 各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源(ひと・もの・こと*)を活かした「高浜カリキュラム(生活・総合的な学習の時間)」を市内全園・全校で実施します。

該当アクションプラン H26~H29 高浜カリキュラム推進事業

	何を・どうした	いつ
平成26年度	①幼保小中において、保育計画・学習計画を作成・実践した。	H26.4~
	②各園、各校の実践を、他園や他校が参考にできるよう、「学習指導計画」や「ワークシート」などの各指導資料を作成し、全園・全校がいつでも閲覧できるように保存した。	H27.3
平成27年度	①高浜カリキュラムを充実させるために、推進委員会を3回開催し、目標や入力するモデルプランを話し合った。	H27.5・8
	②高浜カリキュラムの目標や実践後の子どもの姿を、発達段階を踏まえて確認した。	H27.8

基本目標Ⅱ 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

	③各園・各校における高浜カリキュラムの実践状況を確認し、ワークシートや単元構想図などを所定の場所に整理して保存した。	H27.5・8
平成28年度	①年長の食育、小2の生活科、小6の防災、中3のキャリア教育のモデルプランを加えて、12年間の学びをつなげる高浜カリキュラムを実践する。	H28.5～
	②これまで集約したモデルプランや資料について実践を行いながら、修正を加えていく。	H28.5～
	③各教科において、子どもを生き生きと活動させる魅力ある単元構想を集約し、教員の授業力の向上を図り、子どもの学力定着や生きる力の育成につなげる。	H28.5～
平成29年度	①食育、生活科・総合的な学習の時間の高浜カリキュラムを改訂した。	H30. 3
	②教科版高浜カリキュラムを集約した。	H30. 3
	③高浜カリキュラムで、主体的・対話的で深い学びを狙い、コミュニケーション能力の育成につなげる。	H29. 5～
(3) 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。		
該当アクションプラン H26～H28 めざす子ども像推進事業 H29 異校種間連携推進事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①異校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿の周知方法を検討した。	H26.5～8
	②校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿を周知するためのカレンダーや周知用ポスターのデザインについて検討した。	H26.8
	③教育基本構想推進の様子を家庭や地域に可視化するため、カレンダーに各校各園の活動写真や連携交流事業日程を掲載したデザインにした。	H27.1
平成27年度	①「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配布した。また、PTA 総会などを活用して、保護者へ説明した。	H27.5
	②育てていきたい子どもの姿」周知のために実践した具体的な取り組みを推進委員会で発表した。	H27.8
	③広報に毎月の重点目標を紹介した。	H27.7～
平成28年度	①異校種参観を対象職員で行った。	H28.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。	H28.6
	③幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。	H28.5～
	④幼保小中の学習指導法を集約した。	H28.5～
	⑤「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配付した。	H28.5
平成29年度	①「育てていきたい子どもの姿」や各校・園の取組の周知のため、市内幼・保、小、中に通う子ども全員と地域各種団体に配付する活用型カレンダーについて検討した。	H30. 2
	②「育てていきたい子どもの姿」があらわれている写真やイラストを集積した。	H30. 2
	③幼保小中の高浜版学習指導法を周知した。	H30. 2

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
・(1) 高浜カリキュラムの実践と集約	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業や高浜版プログラミング教育を実践したり、教科版として、優れた授業実践案や単元構想などを集約したりする。 ・主体的・対話的で深い学びを狙い、コミュニケーション能力の育成に取り組む。
(2) 異校種間連携事業（異校種参観含む）の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども中心の取り組みである異校種間連携事業を精選する。 ・異校種参観を行い、互いの教育観を学び、授業力を高めることにつなげる。
(3) 育てていきたい子どもの姿の周知（カレンダー作成）	<ul style="list-style-type: none"> ・園児から中学生まで全員に活用型のカレンダーを配付し、子ども一人一人が目指す姿を意識できるようにする。
(4) 個のニーズに応じた教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保、小、中の教員が子どもの個々の支援情報の引き継ぎを確実に行う。 ・教員の特別支援教育への理解を深める研修を行う。



後期基本計画「目標（４）学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。	No.13 異校種間連携推進事業 〔教育センターグループ〕
<ul style="list-style-type: none"> ・高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。 ・高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。 	No.14 高浜カリキュラム推進事業 〔教育センターグループ〕
支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引き継ぎを確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。	No.15 異校種間連携推進事業 〔学校経営グループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

目標 (5)

地域ぐるみで子育て・子育てを支えます



▲放課後居場所事業

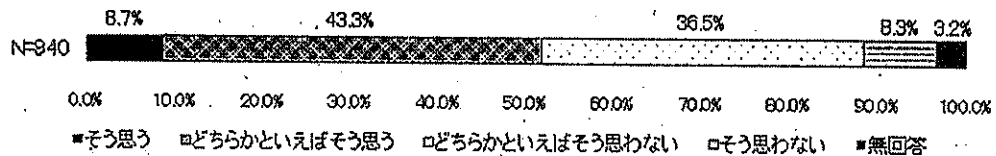
I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿	
目標達成に向けての考え方	地域社会を構成する地域・事業者・関係機関と連携し、子育て・子育てを総合的に支援することにより、「社会の宝」である子どもが健やかに成長でき、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子育てと仕事の両立など、安心して子どもを産み、育てられる環境が整っています。 ◇ 子育てを楽しむ親や地域の大人が増え、親子の対話や世代間交流が活発に行われ、子どもとともに成長しています。 ◇ 子どもの視点に立った成長支援が地域ぐるみで行われ、子どもがのびのびと活動し、家庭やまちに笑顔があふれています。

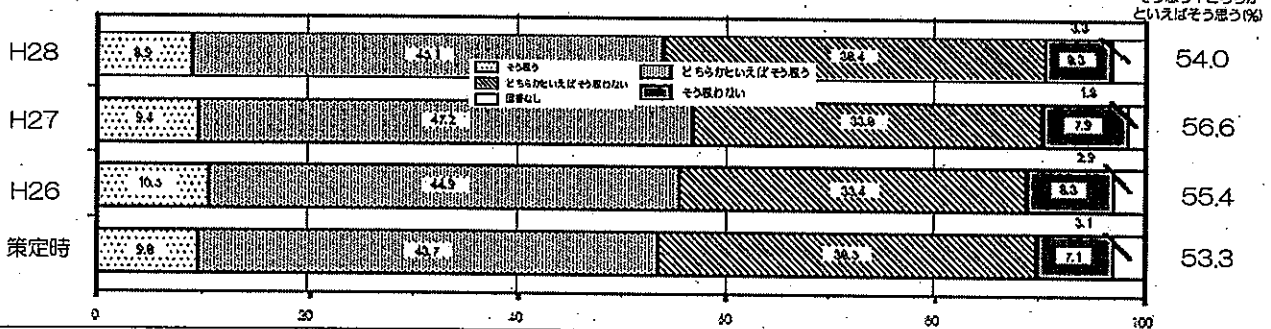
2. 市民意識調査結果

【設問】

地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う

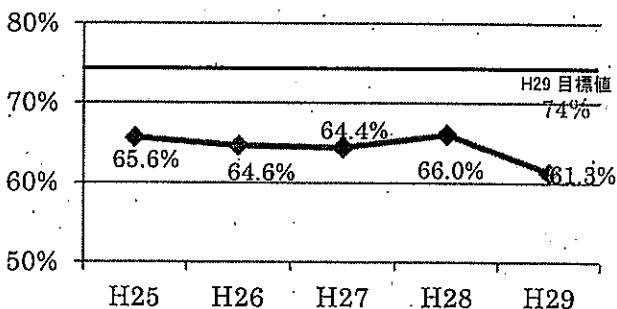


⇒ そう思う+どちらかといえばそう思う (%) 52.0%

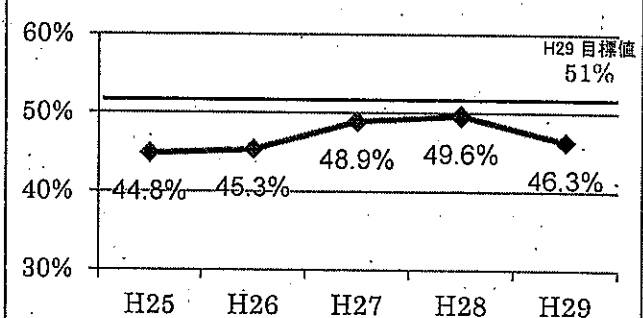


3. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合



2) 子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合



4. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する現状分析（要因・課題等）

- ・指標1) 「子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合」は 61.3%と平成25年度調査 65.6%から 4.3%の減となっている。国の施策の影響で、保育サービスの利用ニーズが増加しており、受け皿の拡大をしても追いつかない状況であり、目標値の74%には達成しない状況であった。
- ・指標2) 「子どもとふれあう行事に参加したことのある人の割合」は 46.3%と平成25年度調査 44.8%から 4.3%の増となっているが、目標値の51%には達成しない状況であった。全市的な行事、各学区での行事が増加傾向であり、参加者も増加していたが、目標達成には至らなかった。
- ・市民意識調査結果「地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う」は 52.0%と平成25年度調査 53.3%から 1.3%減となっている。
- ・いずれについても目標達成に至らない結果となり、待機児童対策をはじめ、さらなる施策の充実が必要と感じる。

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み（「こんなことに取り組みます！」の実施内容）

（1）「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。

該当アクションプラン H26～H29 保育サービス充実事業

何を・どうした		いつ
平成26年度	①人口分布が多い4歳児において、弾力運用による対応を行った。	H26.4～ H27.3
	②家庭的保育の新制度対応について検討した。（食事、勤務体系等）	H26.4～ H27.3
	③子ども・子育て会議を開催し、「子ども・子育て支援事業計画」を策定した。	H26.4～ H27.3
平成27年度	①吉浜さんさん保育園の3歳児定員を追加した。	H27.4～
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H27.4～
	③家庭的保育施設で子ども・子育て支援新制度に対応できるよう、給食提供を開始した。	H27.4～
平成28年度	①吉浜さんさん保育園の4歳児定員を追加した。	H28.4～
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H28.4～
	③高浜幼稚園で、7:30～18:00 までの長時間預かり保育を開始した。	H28.4～
平成29年度	①吉浜さんさん保育園の5歳児定員を追加した。	H29.4～
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H29.4～
	③高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化の運営法人を決定した。	H29.6

基本目標Ⅱ 学び合い力を合わせて豊かな未来を育もう

(2) 子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取り組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。		
該当アクションプラン H26 子育て・家族支援ネットワーク事業、 子どもと大人のパートナーシップ推進事業 H27～H29 子育て・家族支援ネットワーク事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①子ども市民憲章普及啓発冊子「おとなもこどもも」を配布・設置した。	H26.4～ H27.3
	②子育て支援団体の活動内容を、ブログを活用したシステムで提供できるようにした。	H26.7
	③市ポータルサイトの更なる利便性の向上のため、利用者ニーズの把握のためのアンケートを実施した。	H26.11
平成27年度	①アンケート結果等を活かし、子育て支援ネットワークのポータルサイトの情報更新を随時行った。	H27.4～
	②子育て中の登録者に対し、子育て支援ネットワークのメールマガジンを配信し、行事予定等の情報提供をした。	H27.4～
	③子育て・家族支援者養成講座（利用者支援コース）を実施し、子育て支援の人材育成を行った。	H27.9～11
平成28年度	①こども育成グループに、子育て支援コーディネーターを配置し、利用者の相談体制を拡充した。	H28.4～
	②いちごプラザに、子育て・家族支援者を配置し、身近な場所での利用者支援を拡充した。	H28.4～
	③ポータルサイトやメールマガジンで定期的に情報提供をした。	H28.4～
平成29年度	①子育て支援員研修を開催し、子育て支援員を認定した。	H29.5～ H29.9
	②ポータルサイトやメールマガジンで定期的に情報提供をした。	H29.4～
(3) 世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。		
該当アクションプラン H26～H29 居場所充実事業		
何を・どうした		いつ
平成26年度	①市内5つの小学校で放課後居場所事業を実施した。	H26.4～ H27.3
	②放課後居場所事業において、雨天中止時等の対応を検討した。	H26.4～ H27.3
	③夏季休暇において、昼間保護者がいない児童を対象に、弁当持参で児童センターを利用することができるサマーキッズを実施した。	H26.7～8
平成27年度	①各小学校区において、雨天時や長期休暇にも対応する年間を通じた居場所事業「センターキッズ」を開始した。	H27.4～
	②夏休み等に市内の方を講師にした講座を開催した。	H27.4～
	③児童クラブの入会説明会時に、居場所のチラシを配布した。	H28.1～
平成28年度	①小学校の全校集会で居場所事業のPRをした。	H28.5
	②夏休みに、地域の方を講師にした講座を開催した。	H28.8
	③子育て支援ポータルサイトで居場所事業のページを充実した。	H28.9
平成29年度	①小学校の全校集会で居場所事業のPRをした。	H29.5
	②夏休みに、地域の方を講師にした講座を開催した。	H29.8
	③子育て支援ポータルサイトで居場所事業の情報提供を行った。	H29.4～

Ⅲ. 課題と今後の取組みの方向性

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 待機児童対策</u> ・国が大幅に進めようとしていることもあり、特に1・2才児の待機児童への対策が、引き続き重要な課題となる。	・国の施策により、就労女性の増加がさらに進むとともに、保育ニーズの早期化が求められる。
<u>(2) 身近な場所での子育て支援</u>	・子育て家庭への支援は、行政だけで解決できるものではなく、地域と一緒に解決していく必要がある。 ・幼稚園や保育園、子育て支援センターや児童センターなど、子育てを支援する施設に加え、小学校区内のような身近な場所で子育てを支援する人材の育成や確保が必要である。
<u>(3) 身近な場所での子どもの居場所づくり</u> ・全国的に放課後児童クラブの利用ニーズがさらに増加傾向となることが予想される。	・児童センターや学校ではない場所で、昔の駄菓子屋のような、また、高齢者の健康自生地のような、子どもたちが放課後に身近に集える場が必要である。



後期基本計画「目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」へのつながり	
こんなことに取り組みます！	平成30年度アクションプラン
「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。	No.16 保育サービス充実事業 〔こども育成グループ〕
子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。	No.17 子育て・家族支援ネットワーク事業 〔こども育成グループ〕
世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。	No.18 居場所充実事業〔こども育成グループ〕

Ⅳ. 第6次高浜市総合計画推進会議 コメント

